



文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)

平成29年度 まち・ひと・しごと創生

高知イノベーションシステム 報告書



高知大学
Kochi University

はじめに

平成25年度から始まっていた文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」(COC)において、「高知大学インサイド・コミュニティ・システム(KICS)化事業」を実施してきました。県内7ブロックに設置された高知県産業振興推進本部との連携を密接にし、高知県と高知大学とが一堂に会する形で設置された『高知県地域社会連携推進本部』のもとに、県内全域の産業を含む地域振興に取り組んできました。その取り組みに加えて、平成27年度からは、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)に高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校との連携を強化する形で、「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」がスタートして3年が経過しました。本事業の推進のために、参加大学および高知県、土佐経済同友会、高知県中小企業家同友会、高知県工業会、高知県経営者協会が一堂に会する『大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議』を設置し、学生の地元就職率を高めると同時に、雇用創出のための様々な取り組みを実施してきたところです。

教育・研究・地域連携・国際連携、大学として取り組むべきすべての側面を包含していないといけないという理由で、平成25年当時、総務・国際担当理事・副学長であった私が、これらの事業の実施責任者に指名され、これらの会議の議長を務めてまいりました。この間、高知県内の様々な方と接する機会を与えられ、普段は知り知ることのできない現場の声をずいぶん多数お聞きすることができました。「地方創生」という言葉には魅力的な響きがありますが、実際にそれを地方において実現していくことの困難さを感じ続ける5年間でもありました。

KICS事業の成果として実感したのは、地方に入り込んでいったからこそ分かったこと、実現できたことがほとんどである、ということです。COC+事業では、学生の地元就職率向上と、雇用の創出がメインの成果となります。数値目標に示される結果を求めることも重要ですが、それを達成することで、地元である高知県がどれだけ元気になったか、ということがより重要であると考えています。それこそが、高知創生に最も重要なポイントであり、私たちはこれからもその視点を忘れることなく邁進したいと思います。

これからも、活発な協働を基盤に、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

国立大学法人 高知大学
理事(総務・国際・地域担当)
まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム
事業責任者

櫻井 克年



目次

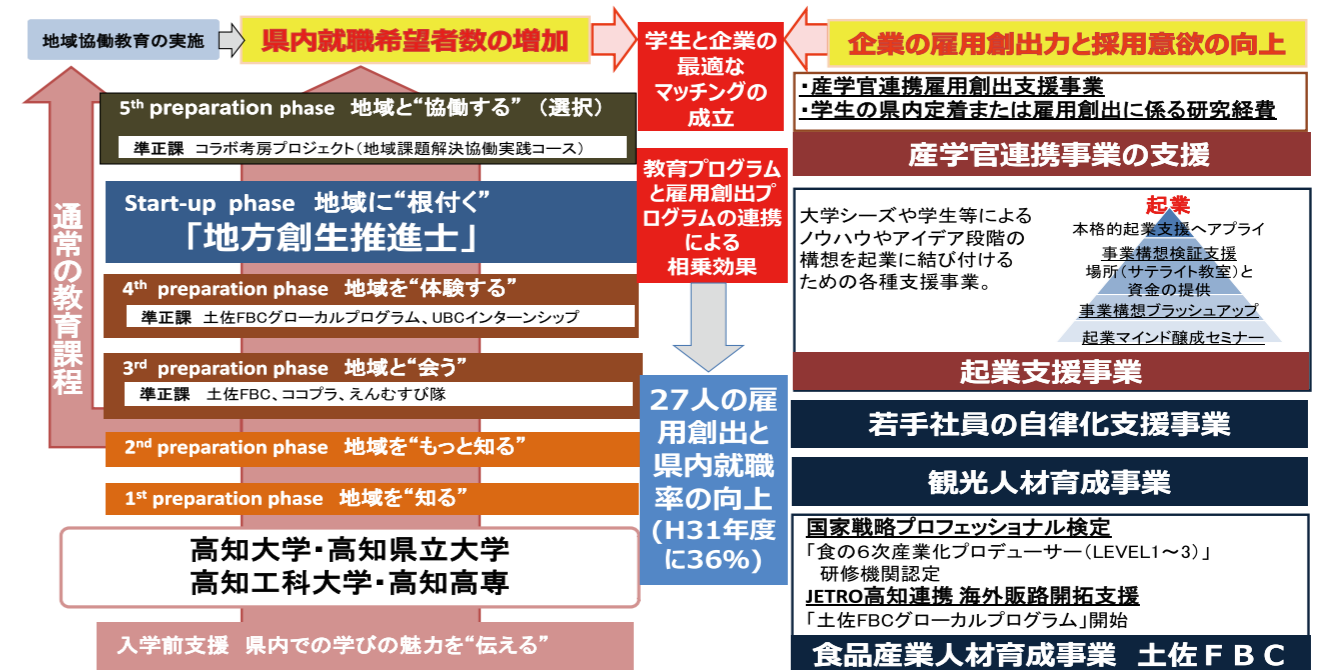
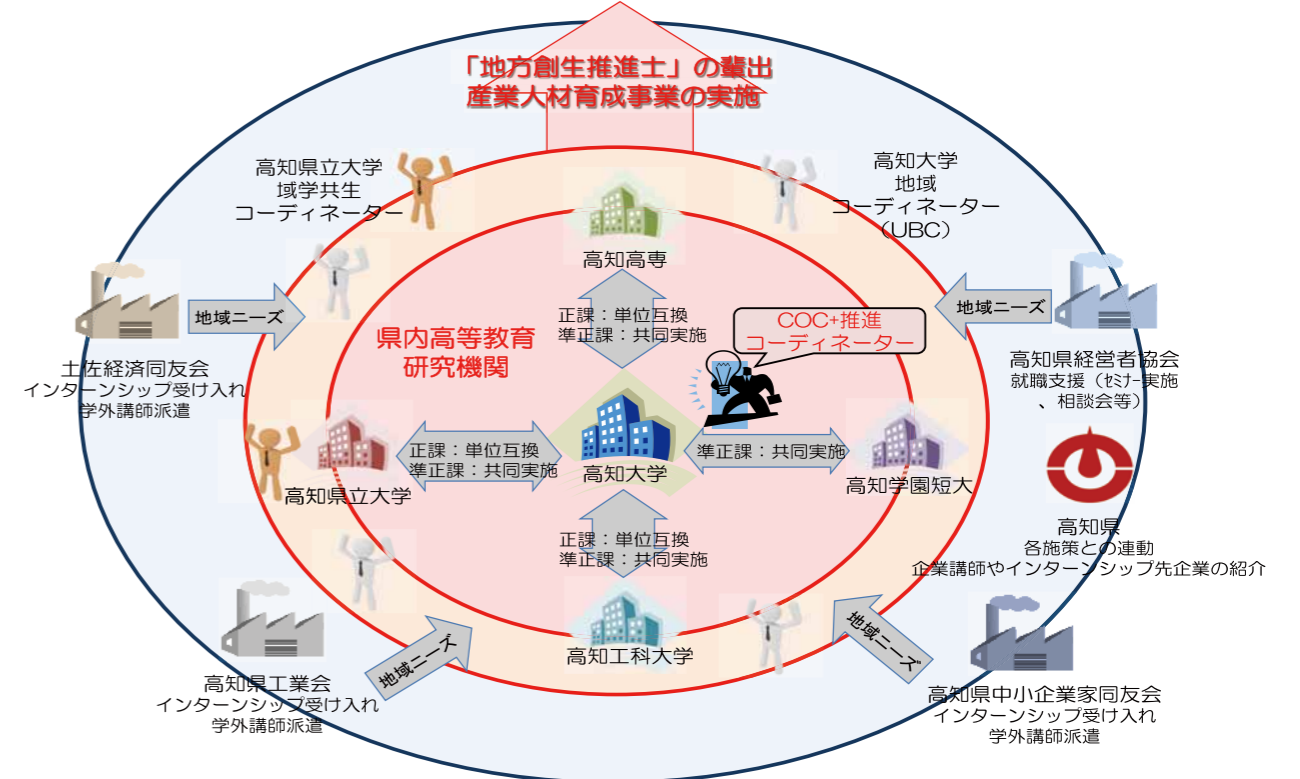
はじめに		
まち・ひと・しごと創生	高知イノベーションシステムの概要	4
事業実施体制	1 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部	6
	2 教育プログラム開発委員会	7
	3 組織体制	8
事業活動報告	1 事業活動醸成セミナー	9
	2 地方創生推進士の活動	11
	3 県内就職率向上	12
	①えんむすび隊	12
	②土佐FBC部分受講	13
	③社長インターンシップ	15
	④高知市長インターンシップ	16
	⑤高知財務事務所長インターンシップ	16
	⑥UBCインターンシップ	19
	⑦コラボ考房プロジェクト	20
	⑧地域講座	21
	⑨地域交流	22
	4 雇用創出	23
	①学生の県内定着または雇用創出に係る研究の推進	23
	②食品産業育成事業	24
	③若手社員の自律化支援事業	28
	④観光人材育成事業	30
	⑤起業支援事業	32
	5 全国ネットワーク化事業 平成29年度COC/COC+全国シンポジウムの開催	33
	6 全国COC+推進コーディネーター会議	35
参加大学活動状況	1 高知県立大学	36
	2 高知工科大学	37
	3 高知工業高等専門学校	39
評価	1 外部評価	40
	2 中間評価	41

まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステムの概要

中小零細企業が大多数を占める高知県では、学生は県内企業の事業内容や独自技術に対する知識が無く、教育機会も少ない。また、産業基盤が脆弱で有効求人倍率が低く、学生の就職先は県外が中心である。この動きに歯止めをかけるべく、学生が地域を“知り”、地域と“会い”、仕事を“体験し”、“協働する”一連のプログラムを創出し、地域に対する深い理解と愛情を持った学生「地方創生推進士」を育成する。さらに、企業の人材育成と産学官連携を促進するプログラムを構築することで雇用創出力と採用意欲を高めて、県全体の産業振興にも貢献する。両プログラムを連動させることで、学生に優れた社会教育機会を提供すると共に、「地方創生推進士」の県内企業との適切なマッチングを図る。

本事業を県内全ての大学等が結集して実行することで、「しごと」を創り、「ひと」を育て、「まち」の持続的発展を担保する、高知型のソーシャルイノベーションが創出される。

事業協働地域への就職率向上・企業等の雇用創出支援



卒業後には地域に定着し、地域の中核人材として活躍

(カリキュラムマップの例)

分類	代表的科目例	準正課例
第4phase	プロジェクトマネジメント演習 事業企画プロジェクト実習	社長インターンシップ UBCインターンシップ
第3phase	地域理解実習 地域協働企画立案実習	土佐FBC部分講義 えんむすび隊
第2phase	地域組織論 地域資源管理論	
第1phase	課題探究実践セミナー 高知の中小企業を知る 地域協働論	

事業実施体制

1 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部

大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部の事業運営として、平成29年度は、大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議を5回開催し、県内高等教育機関、高知県及び地域産業界とが「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」の事業運営について協議を行いました。

● **第1回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議**

- 【開催日時】平成29年6月1日(木)～平成29年6月9日(金)
- 【主 議 題】 ● 教育プログラム開発委員会要項の改正について
- 平成28年度事業実績報告について



● **第2回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議**

- 【開催日時】平成29年10月26日(木) 13:00～14:15
- 【主 議 題】 ● 平成29年度前期地方創生推進士の認証について
- 「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」特任教員の再任(案)について
- 平成29年度教育プログラム開発委員会(第1回～第3回)報告
- 平成29年度外部評価委員会報告
- 平成29年度事業実施状況報告
- 中間評価報告

● **第3回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議(メール会議)**

- 【開催日時】平成29年12月5日(火)～平成29年12月8日(金)
- 【主 議 題】 ● 「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」特任教員の再任について

● **第4回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議(メール会議)**

- 【開催日時】平成30年1月26日(金)～平成30年2月1日(木)
- 【主 議 題】 ● 地方創生推進士教育プログラム修了要件の改正について



● **第5回 大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議**

- 【開催日時】平成30年3月12日(月) 13:30～15:00
- 【主 議 題】 ● 平成28年度地方創生推進士の認証について
- 平成28年度事業実績について
- 平成29年度事業計画について
- 大学以外の事業協働機関による事業への満足度調査について
- 中間評価結果 など

大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議委員名簿

平成29年4月1日現在

機 関 名	役 職 等	氏 名
高知大学	理事(総務・国際・地域担当)	櫻井 克年
高知大学	地域連携推進センター長	受田 浩之
高知県立大学	地域教育研究センター長	清原 泰治
高知工科大学	地域連携副機構長	浜田 正彦
高知工業高等専門学校	地域連携センター長	宮田 剛
高知学園短期大学	教務部長	吉村 斉
高知県	産業振興推進部長	松尾 晋次
高知県	商工労働部長	中澤 一眞
土佐経済同友会	副代表幹事	佐竹 新市
高知県中小企業家同友会	代表理事	成岡 英司
高知県工業会	常務理事・事務局長	西内 豊
高知県経営者協会	事務局長	芝 一純

2 教育プログラム開発委員会

平成29年度は、教育プログラム開発委員会を5回開催し、地方創生推進士成科目の充実・整備を行い、地方創生推進士の育成に取り組みました。その結果、参加大学である高知工科大学の学生を含み本年度のみで20名の「地方創生推進士」が誕生しました。

● **第1回 教育プログラム開発委員会**

- 【開催日時】平成29年7月21日(金) 13:00～14:20
- 【主 議 題】 ● 地方創生推進士認証申請手続の改正について
- 平成28年度共通の成果目標等における実績報告



● **第2回 教育プログラム開発委員会(メール会議)**

- 【開催日時】平成29年8月21日(月)～平成29年8月25日(金)
- 【主 議 題】 ● 地方創生推進士の認証申請等に関する取扱いについて

● **第3回 教育プログラム開発委員会**

- 【開催日時】平成29年10月10日(火) 14:30～15:20
- 【主 議 題】 ● 平成29年度前期地方創生推進士の資格審査について
- 平成29年度事業実施状況報告

● **第4回 教育プログラム開発委員会**

- 【開催日時】平成30年1月19日(金)～平成30年1月24日(水)
- 【主 議 題】 ● 地方創生推進教育プログラム修了要件の改正について



● **第5回 教育プログラム開発委員会**

- 【開催日時】平成29年3月9日(金) 10:00～11:30
- 【主 議 題】 ● 平成28年度地方創生推進士の資格審査について
- 平成29年度開講地方創生推進士育成科目について
- 平成28年度補助事業実施状況報告について など

教育プログラム開発委員会委員名簿

平成29年4月1日現在

機 関 名	役 職 等	氏 名	備 考
高知大学	理事(教育・附属学校園担当)	藤田 尚文	第3条第1号委員
高知県立大学	教務部長	長戸 和子	第3条第2号委員
高知工科大学	教育センター長	古沢 浩	第3条第3号委員
高知工業高等専門学校	教務主事(副校長)	秦泉寺 俊弘	第3条第4号委員
高知学園短期大学	教務部長	吉村 斉	第3条第5号委員
株式会社ヒワサキ	取締役相談役	日和崎 二郎	第3条第6号委員

3 組織体制

平成27年11月に本学地域連携推進センター内に地方創生推進部門を設置するとともに事務部門として地域連携課内に地方創生推進室を設置して業務運営を開始しました。

平成28年4月からは、COC+推進コーディネーター及び同補佐の2名を迎え、組織体制が整ったことから、事業目標達成に向けた事業活動が進められている。

また、県内高等教育機関担当者と高知県担当者からなる担当者連絡会を発足させ、月1回開催して情報の共有等を行っている。

上述のように県内高等教育機関の連携体制が強化されたこともあり、平成29年度は地方創生推進士育成に関し成果が上がっている。

事業推進責任者

(平成29年度組織体制)

役 職	氏 名
理事(総務・国際・地域担当)	櫻井 克年

地域連携推進センター

役 職	氏 名
地域連携推進センターセンター長	受田 浩之

地方創生推進部門

役 職	氏 名
COC+推進コーディネーター(地方創生推進部門長)	川澤 慶洋
同補佐(地方創生推進部門専任教員)	川竹 大輔
兼務教員(域学連携推進部門長)	吉用 武史
兼務教員(UBC)	赤池 慎吾
兼務教員(UBC)	大崎 優
教務教員(UBC)	岡村 健志
兼務教員(UBC)	梶 英樹
地域連携推進センター教務補佐員	高田 順子
// 事務補佐員	山川 里香

地方創生推進室

役 職	氏 名
地方創生推進室長(地域連携課長)	芝 弘行
地方創生推進室長補佐	片岡 清茂
地方創生推進係主任	知名 桂
// 主任	片岡 俊弘
// 教務補佐員	大槻 聖子
// 事務補佐員	石元 久美

1 事業推進醸成セミナー

平成29年度は教職員及び学生に対してCOC+事業の理解や「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」で実施する各種事業についての広報を兼ねて理工学部及び農林海洋科学部に的を絞りFD/SD研修会、学生向けセミナーを開催しました。

① 教職員編

○理工学部

【開催日時】平成29年10月18日(水) 13:00~13:30

本学のCOC+推進コーディネーター補佐の川竹特任准教授から「高知大学COC+事業とは～学生の県内定着を目指す～」と題して、平成25年度から実施している「COC事業」から「COC+事業」の概要、「地方創生推進士のススメ」、「県内定着増の取組み」について理工学部教授会の時間を利用し、FD/SD研修会として実施しました。この研修会は理工学部副学部長からの要請もあり、理工学部とともに実施したものです。

○農林海洋科学部

【開催日時】平成29年10月24日(火) 教授会終了後

本学のCOC+推進コーディネーター補佐の川竹特任准教授から「高知大学COC+事業とは～学生の県内定着を目指す～」と題して、平成25年度から実施している「COC事業」から「COC+事業」の概要、「地方創生推進士のススメ」、「県内定着増の取組み」について農林海洋科学部教授会の時間を利用し、FD/SD研修会として実施しました。

この研修会は当初学生向けセミナーと同時開催で企画していましたが、学部長からの要請でFD/SD研修会として単独で実施したものです。

② 学生向けセミナー

○農林海洋科学部

【開催日時】平成29年10月17日(火) 13:00~16:00

【セミナー名称】「地方創生推進士」認証取得のススメ ～あなたの志をこの地に～

【プログラム構成】

- ・学部長挨拶
- ・COC+事業について
- ・企業経営者講演
- ・OB・OGの体験談
- ・農林海洋科学部(農学部)就職室の取組

まず始めに、尾形農林海洋科学部長から今回の企画趣旨説明とともに農林海洋科学部長としての考えや農林海洋科学部としての取組みについての話が盛り込まれた挨拶が行われました。

続いて、川竹COC+推進コーディネーター補佐から高知大学がCOC+事業を行う意義や地方創生推進士に就くこと、物部キャンパスで開講している準正課の土佐FBC部分受講はぜひ推奨したいということ、また、そのための教育プログラム内容について説明が行われました。

その後、企業経営者講演として、高知大学農学部出身で高知県宿毛市において「与力水産」を経営する吉村典彦氏から「農学部で学んだからこそ今がある」と題した講演をいただきました。吉村氏からは現在の会社を設立した経緯や企業経営者としての考えなどを交え学生に熱く話しかけられました。

引き続き、OB・OGの体験談として、大阪出身で高知県庁幡多土木事務所に勤務する布田知沙さんから大学時代に取り組んだインドネシアと四国の6大学が協働して取り組む(SUIJI) 事業での活動や就職後の仕事内容などの話をいただき、最後に後輩に向けて高知のために高知でともに働きましようとのメッセージが送られました。

続いて、岐阜県出身でJA全農こうち勤務する太田和成さんからは、大豊町八畝地区での地域活動を中心に学生時代に活動した経験談が語られるとともに布田さんと同じく後輩に向けて熱いメッセージが送られました。

プログラムの最後は、物部総務課の就職担当者から農林海洋科学部における就職支援事業の紹介などが行われました。

閉会の挨拶を兼ねて最後に川澤COC+推進コーディネーターから学生に向けて、地域に対する理解を深めて欲しい旨の話で締めくくられました。



○理工学部

【開催日時】平成30年1月24日 13:30~15:30

【セミナー名称】「地方創生推進士」認証取得のススメ

～就職活動を始めるにあたって知っておいて欲しいこと～

【プログラム構成】

- ・学部長挨拶
- ・COC+事業について
- ・OB・OGの体験談
- ・理工学部(理学部)就職支援の取組

冒頭、鈴木理工学部長から今回の企画趣旨説明とともに理工学部長としての考えや理工学部としての取り組みについての話が盛り込まれた挨拶が行われました。

続いて、川竹COC+推進コーディネーター補佐から高知大学がCOC+事業を行う意義や地方創生推進士に関する事、そのための教育プログラム内容について説明が行われました。都会に比べての高知での生活のしやすさを示しました。

その後、OB・OGの体験談として、理学部を卒業して社会人一年目の株式会社四国銀行の高橋護さんとYAMAKIN(株)の間麗衣さんから、どんな就職活動をしたのか、また社会人としての仕事や暮らしのことを語っていただきました。高橋さんからは大学そばの支店で地域に密着した業務にあたること、間さんからは素敵な環境のなかで大学での学びを活かした仕事をしていることの紹介がありました。

プログラムの最後は、就職室の徳弘室長から理工学部(理学部)における就職支援事業の紹介などが行われ、早めの情報収集や活動が満足度の高い就職につながる傾向にあると語っていました。



2 地方創生推進士の活動

◎ 取得者が増えた地方創生推進士

「地方創生推進士」は、高知県内の高等教育機関(高知大学、高知県立大学、高知工科大学、高知工業高等専門学校)の教育課程で、地域の住民と積極的に触れ合い地域の課題解決に取り組む経験などを経て、地域への理解と愛情を深め、高知をはじめとする地域で働き貢献したいという学生に与えられる称号です。

地域を知り、地域と会い、仕事を体験し協働する一連の教育プログラムを、第1フェーズから第5フェーズまで設け、地域への理解と愛情を深め、地域に貢献したいとする学生を「地方創生推進士」として認証します。地域の未来をつくる革新力となる人材、すなわちローカル・イノベーターとして期待されています。

平成29年度は農林海洋科学部と理工学部の学生を対象にセミナーを開催するほか、地域協働学部の3年生を対象に地方創生推進士取得をすすめる機会を設けました。

また、地方創生推進士育成科目をさらに整備するとともに、COC+教務管理システムの改修を行ったことで、地方創生推進士有資格者を簡単にリストアップができるようになって、対象者に認証取得に向けた案内を直接に実施しました。

地方創生推進士の就職受け皿になる企業に対しては、アンケート調査や社長インターンシップの協力依頼、さらに高知高専テクノフェローでの講演を通じて広報しました。

その結果、認証取得に向けた履修指導が積極的に行われたこともあって、平成29年度の地方創生推進士育成目標数が当初の想定では10名であったところ、平成29年度末で22名(人文学部5名、理学部1名、地域協働学部15名、高知工科大学1名)が「大学連携まち・ひと・しごと創生推進本部会議」で地方創生推進士として認定されました。

地方創生推進士を取得した学生で平成29年度に卒業する学生6名のうち5名は高知県での就職定着となっていて、地域での今後の活躍やネットワークづくりが期待されています。



地方創生推進士になれるかもっ！！

高知大学では、大学の教育課程で地域を学び地域と関わり、さらに高知で働き貢献したいという志を持った学生に「地方創生推進士」という称号を付与し認証しています。認定を受けるにあたっては、正課、独立課を問わず必要な単位を修得する必要がありますが、すでに必要単位の修得した学生は、卒業までに必要な単位を修得する必要があるため、卒業までに必要な単位の修得が必要です。修得状況の確認については、コラボレーション・サポートパークで行っておりますので、関心のある方は、ぜひ相談ください。お待ちしております。

注目！「地方創生推進士」は、みなさんの学びと経験を証明します。

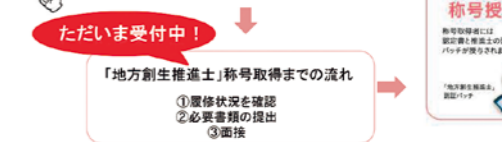
大学時代に地域課題と向き合い、学びと重ねてきた経験を証明する「地方創生推進士」の称号です。自身の関心と学びを証明する称号を修得し、ご活用ください。

注目！ 学部によっては、正課の授業で取得可能！

地方創生推進士として認定されるためには、地方創生推進士育成科目として指定された、正課・独立課の授業を履修する必要がありますが、学部によっては、正課の授業のみで必要単位の修得が可能です。ご自身の履修状況を確認し、必要単位の修得が完了しているか確認することをおすすめします。コラボレーション・サポートパークまでお問い合わせください。

注目！ 今が取得のチャンス！

申込、面接と後援の依頼書送付後、認定が行われます。今が取得のチャンスです！



3 県内就職率向上

① えんむすび隊

○ えんむすび隊の目的

えんむすび隊は、「地域で学ぶ、地域を学ぶ1日だけのstudyツアー」というキャッチフレーズを掲げ、高知大学の学生を対象にこれまでに計104回実施されたスタディツアーです。このツアーは高知県内のさまざまな地域に足を運び、その地域の魅力や課題を学ぶという内容になっています。なお、各ツアーには必ず教員が同行し、地域の方と一緒に農作業等のさまざまな作業を行う内容となっており、見学だけにとどまらない学びの機会となるようプログラムを設計しています。なお、「えんむすび隊」は「地方創生推進士育成科目」(準正課/第3phase該当科目)に位置付けられています。

▷ツアー告知ポスター(一例)



○ 平成29年度実施状況

平成29年度は全部で14企画中11回実施し、計128名の学生が参加しました。

実施日	ツアー先	内容
4月16日	四万十町	こいのぼりの川渡し
5月13日	安田町	自然薯植え付け
5月20日	土佐町	旧校舎活用プロジェクト
6月4日	本山町	田んぼアート 田植え手伝い
7月1日、2日	本山町	汗見川 看板作りワークショップ
7月30日	佐川町	今昔写真展の展示
10月22日	本山町	田んぼアート 稲刈り
10月29日	中土佐町	植樹体験
11月19日	いの町	そば収穫
12月2日	安田町	自然薯収穫
12月10日	安田町	山芋まつり
12月16日	南国市	山地酪農を学ぶ
2月21日	佐川町	ひなまつりの飾りつけとまち歩き
3月21日、22日	本山町	民泊体験モニターツアー

○ 本年度の概観

参加した学生からは「高知県内外の様々な地域を見てきましたが、地区全体で地域を盛り上げようとする姿が印象的です」、「実際に地域に行って体験しないと分からないことがたくさんあるのだと改めて気づかされた」といった感想がよせられており、このツアーが学生の地域の実態理解へ貢献していると考えられます。また、本年度は留学生の参加が多く、地域について学ぶとともにインバウンド観光などの課題についても学ぶきっかけとなりました。なお、「えんむすび隊」はメディアで取り上げられることも多く、今年度は11回中7回の取材を受けました。



② 土佐FBC部分受講

食品産業の中核人材として活躍することを願い、土佐FBC(フードビジネスクリエーター)人材創出事業で意欲的に学ぶ社会人と一緒に、学生が机をならべ学習して交流を行う土佐FBC部分受講を、準正課(3phase)の位置づけで開きました。

「商品開発」「食と地域のつながり」「火曜受講」(座学で合計約20時間)の3つのコースのうちから選択して履修するコースを設けています。

高知大学物部キャンパスで学ぶ7名が受講して、6名が修了しました。

受講生募集 4月27日締切

地方創生推進士育成科目 3rd phase 準正課

土佐FBC部分受講

食品産業を担っていく社会人と学び、交流をしよう。

県内で食品産業の中核人材として活躍することを願い、土佐FBC(フードビジネスクリエーター)人材創出事業で意欲的に学ぶ社会人と一緒に、学生が机をならべ学習して交流を行う講義を、準正課の位置づけで開きます。

「商品開発」「食と地域のつながり」「火曜受講」(座学で合計約20時間)の3つのコースのうちから選択して履修するコースを設けました。



※部分受講では「座学」のみ受講可能です。受講料は無料。
 ※会場は高知大学物部キャンパスの教室です。
 物部キャンパスへの移動は各自でお願いします。
 ※応募選考後、初回授業までにオリエンテーションを受けていただきます。
 ※平成29年度の受入可能人数は5名です。
 ※講義だけでなく、飲食を含む社会人との交流プログラム(1回)を予定しています。

<相談・申込み先>
 ○土佐FBC II 企画運営室(物部地区)
 Mail:tosa-fbc@kochi-u.ac.jp Tel:088-864-5158
 ○コラボレーション・サポート・パーク(朝倉地区) 大槻
 Mail:cobo@kochi-u.ac.jp Tel:088-844-8932
 この準正課は地方創生推進士育成科目の第3フェーズになるものです。

めざそう!
地方創生推進士!!!



○ 土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業 学生部分受講 商品開発コース【22時間】 平成29年度カリキュラム (2017.3.22現在)

カリキュラム(大分類)	科目番号	科目名	時間数	講師名	講師所属	開講日
食品製造・加工 (42時間)	1	食品製造工学	4.0h	下田 満哉	九州大学大学院	
			4.0h	久塚 智明	㈱FBTプランニング	
	2	食品加工学	2.0h	福留 奈美	フードコーディネーター・お茶の水女子大学専門食育士(上級)	8/29(火)
			4.0h	西岡 道子	高知県立大学	
3	食品化学	6.0h	沢村 正義	高知大学		
		12.0h	受田 浩之	高知大学		
4	発酵化学	4.0h	吉金 優	土佐FBC		
		4.0h	永田 信治	高知大学		
マネジメント (50時間)	5	フードビジネス概論	4.0h	上東 治彦	高知県工業技術センター	
			2.0h	門田 直明	コーライフ・クリエイツ㈱	5/12(金)
	6	知的財産管理	1.5h	中橋 紅美	丸の内法律事務所【土佐MBA】	
			3.0h	下方 晃博	高知大学	
	7	マーケティング	1.5h	平島 輝之	高知商工会議所【土佐MBA】	
			1.5h	大登 正志	㈱高知大丸【土佐MBA】	
			1.5h	斉藤 章	斉藤章公認会計士事務所【土佐MBA】	
			2.0h	久塚 智明	㈱FBTプランニング	
			2.0h	新村 茂夫	㈱アサツー DK	
			2.0h	吉澤 文治郎	ひまわり乳業㈱	
			2.0h	山口 和紀	ジェトロ高知	
2.0h	峠 篤士	高知県産業振興センター				
1.0h	春田 聖史	㈱なかにま企画事務所	5/19(金),20(土)			
8	商品企画開発実践論	10.0h	中島 和代	㈱なかにま企画事務所		
9	協働・地域産業学	4.0h	石筒 覚	高知大学		
10	顧客価値創造論	6.0h	小松 弘明	ソフトブレイン・サービス㈱		
11	販売戦略論	6.0h	奥谷 敦子	奥谷商売研究所		
品質管理 (32時間)	12	食品分析学	2.0h	島村 智子	高知大学	
			2.0h	土居 幹治	マルトモ㈱	
	13	食品衛生学 (HACCP含む)	5.0h	樋口 慶郎	土佐FBC	
			3.0h	中島 悦子	土佐FBC	
食品機能 (36時間)	14	食品学	4.0h	一色 賢司	北海道大学名誉教授	
			12.0h	宮本 敬久	九州大学大学院	
	15	食品機能学	4.0h	小野 邦枝	高知県食品・衛生課	
			4.0h	北村 有加	高知県地域農業推進課表示・市場担当チーム	
16	生理・薬理学	2.0h	伊藤 慶明	高知大学名誉教授	5/30(火)	
		2.0h	森山 洋憲	高知県工業技術センター	5/16(火),23(火)	
実験技術 (40時間)	17	全般	4.0h	沢村 正義	高知大学	
			6.0h	沢村 正義	高知大学	
	18	全般	4.0h	柏木 文弘	高知大学	
			4.0h	八木 年晴	高知大学	
	19	全般	4.0h	松井 利郎	九州大学大学院	
			4.0h	渡邊 浩幸	高知県立大学	
	20	全般	4.0h	西沢 邦浩	㈱日経BP	
			4.0h	作田 圭亮	小川香料㈱	
	21	全般	2.0h	上岡 樹生	高知大学	
			2.0h	今村 潤	高知大学	
22	全般	2.0h	竹内 啓晃	高知大学		
		2.0h	島村 智子	高知大学		
現場実践学 (40時間)	18	全般	4.0h	沢村 正義	高知大学	
			6.0h	沢村 正義	高知大学	
			4.0h	柏木 文弘	高知大学	
			5.0h	樋口 慶郎	土佐FBC	
			11.0h	吉金 優	土佐FBC	
			11.5h	中島 悦子	土佐FBC	
			2.5h	栗田 せりか	土佐FBC	
			4.0h	上東 治彦	高知県工業技術センター	
			4.0h	森山 洋憲	高知県工業技術センター	
			4.0h	岡本 佳乃	高知県工業技術センター	
課題研究 (40時間)	19	全般	4.0h	近森 麻矢	高知県工業技術センター	
			4.0h	加藤 麗奈	高知県工業技術センター	
			4.0h	阿部 祐子	高知県工業技術センター	
			4.0h	竹田 匠輝	高知県工業技術センター	
			4.0h	秋田 もなみ	高知県工業技術センター	
			4.0h	浦木 嘉朗	高知県工業技術センター	
			4.0h	永田 信治	高知大学	
			4.0h	島村 智子	高知大学	
			4.0h	柏木 文弘	高知大学	
			4.0h	上東 治彦	高知県工業技術センター	
食Pro.特別プログラム (40時間)	20	農産加工実習	3.0h	森山 洋憲	高知県工業技術センター	
			3.0h	岡本 佳乃	高知県工業技術センター	
	21	農産物現場実習	2.5h	中村 文隆	南国スタイル㈱【土佐FBC1期Aコース修了生】	
			2.5h	朝倉 和也	旭食品㈱	
	22	物流センターの視察	1.5h	窪添 真史	旭食品㈱【土佐FBC7期選択受講コース修了生】	
			1.5h	松本 美佐	旭食品㈱【土佐FBC7期選択受講コース修了生】	
23	申請書作成講座	3.0h	松田 高政	㈱こうち暮らしの楽校		

③ 社長インターンシップ

教育プログラム「地方創生推進士育成科目」(準正課)では、第4phaseのなかで「社長インターンシップ」を開講しました。

「社長インターンシップ」は、県内で活躍する中小企業経営者や団体トップに密着同行し、企業経営者らの考え方やリーダーシップなどを直接学ぶインターンシッププログラムです。

地域企業の実情に直接触れ、課題の認識と解決のための方策を考えることで、地域に定着して貢献することの意義を自分事として捉えることを目的にしています。

以下の企業団体にご参画いただきました。

株式会社サニーフーズ、四国管財株式会社、株式会社土佐龍馬の里、有限会社戸田商行、株式会社ヒワサキ、丸和建設株式会社、ミタニ建設工業株式会社、宮地電機株式会社、依光瓦工業有限会社、株式会社ワークウェイ、株式会社高南メディカル、株式会社南の風社、和建設株式会社、株式会社アースエイド、有限会社アフロディア、白川浩平税理士事務所、株式会社リーブル、NPO法人ONEれいほく、四国財務局高知財務事務所、高知市役所

企業の参画募集にあたっては、事業協働機関の経済団体の皆様にご協力を頂戴しました。心から感謝申し上げます。

平成28年度は3事業所へ8名の学生の参加でしたが、今年度は10事業所に対して、17名の学生が参加をしました。社長インターンシップの受講学生からは、

「社長がおっしゃっていた何事にも感謝を持つこと、社員をフラットな関係で見、接する姿勢を話や行動から見ることができた。この姿勢について私も見習っていきたい」

「社長はじめ、社員さん全体が自分の仕事に誇りを持ち、懸命に仕事されていて、自分も負けていけない気持ちになった」

「社長は、会社全体の現場監督のような立ち位置だと考えていて、しっかり全体に指示が出せるように一歩引いて見ているようでした。社長だからといって入り込み過ぎず、適度な距離感を保って指示することを重視されていました」

といった振り返りがありました。

受け入れた経営者の方からは

「新卒採用の課題について、インターンに来た学生からヒントをもらったのはありがたかった」

「学生がこれから成長をしていくのを楽しみにしている」

といった感想が寄せられています



4 高知市長インターンシップ

高知市役所トップの市長に密着同行し、市長を通じて高知市役所の業務を体験するインターンシッププログラム「高知市長インターンシップ」を今年度初めて開きました。

市長の公務への随伴という職業体験を通じて、職業観や就労意欲を培い、自らの適職を考えていくとともに、高知市の市政に対する理解を深めていくことを目的としています。

高知市役所の実情に直接触れ、業務を経験し成果(体験)を上司(事務所長)に報告することで、行政と市民を繋ぐ架け橋として貢献することの意義を自分事として捉えることも狙いとしています。

市長の日々の動きや何げない会話から、市役所トップの考え方やリーダーシップなどを学べるプログラムです。

高知市役所の業務の概要や組織運営の課題などを聞きながら、自分たちの課題や悩みをぶついたり、市長の姿を実感しつつ、市役所業務の一端に向き合うこともできました。



5 高知財務事務所長インターンシップ

「高知財務事務所長1weekインターンシップ」は、「社長インターンシップ」の一環で実施するもので、財務省高知財務事務所長に密着同行し、所長を通じて財務事務所の業務を体験するインターンシッププログラムです。

国の出先機関の実情に直接触れ、業務を経験し成果(体験)を上司(事務所長)に報告することで、国と地域を繋ぐ架け橋として貢献することの意義を自分事として捉えることを目的としているもので、高知財務事務所長の日々の動きや何げない会話から、国の出先機関トップの考え方やリーダーシップなどを学べるプログラムとなっています。

国家公務員の業務の概要や組織運営の課題などを聞きながら、自分たちの課題や悩みをぶついたり、所長の姿を実感しつつ、学びの範囲で事務所業務の一端に向き合うこともできます。

平成28年度に引き続き、29年度も9月19日から25日までの5日間の日程で、5名の学生が受講しました。

受講した学生からは、

「今回のインターンシップでは、財務局の仕事が身近に感じることができた。自分の社会的視野が広がったと感じる。今後もこのような機会に積極的に参加したい」

「財務省が、予算が適切に使われているかを調査することはなんとなくわかっていたが、実際はさまざまなことを検討したうえで各機関に質問などしていることを知り、とても大変な業務だと感じた」

「所長への報告を体験させていただいたが、慣れないことなので緊張したため、説明がとても早口になってしまった」

といった感想がありました。



○ 実習計画(高知大学) 2017.9.19(火) ~25(月) 高知財務事務所

月日(曜)	時間	実習項目	実習内容	担当課	担当者
9月19日 (火)	13:00	集合		高知総務課	
	13:00 ~ 13:45	オリエンテーション	実習日程、注意事項等の諸連絡、合同庁舎案内等	高知総務課	
	13:45 ~ 14:50	財務局の組織・業務の概要等 (財務本省・金融庁の業務紹介も含む)	財務局の組織、業務内容 (DVDの視聴を含む)	高知総務課	
	15:00 ~ 15:50	所長、各課長挨拶等	・所長、各課長への挨拶 ・実習生自己紹介(一人3分程度) ・所長、各課長との懇談 ・各課への挨拶	所長・各課長 高知総務課	
16:00 ~ 17:00	実習報告作成等	実習の感想など意見交換、実習報告の作成	高知総務課		
9月20日 (水)	9:00 ~ 9:25	連絡事項等	実習報告の提出・確認、諸連絡、当日の準備	高知総務課	
	9:30 ~	融資業務	①財政融資制度の概要等について説明 (財政融資資金の貸付、財務状況把握等)	高知財務課	
	(7:00)		②融資先現地実習 (財政融資資金の活用事例) ※所長が同行する場合があります。		
	~ 12:00		③現地実習後のフォロー(ヒアリング結果の活用などについて)		
	13:00 ~	災害査定立会業務	①災害査定立会制度の概要説明	局主計課	
~	②災害査定立会現地実習 災害現地における模擬査定				
~ 16:00	③査定結果(現地実習)の取りまとめと所長報告				
16:00 ~ 17:00	実習報告作成等	実習の感想など意見交換、実習報告の作成	高知総務課		
9月21日 (木)	9:00 ~ 9:25	連絡事項等	実習報告の提出・確認、諸連絡、当日の準備	高知総務課	
	9:30 ~	国有財産業務	①国有財産管理処分業務の概要等の説明 普通財産管理処分(入札、貸付等)の業務、現地実習にあたってのポイント等	高知管財課	
	~		②現地実習 ※所長が同行する場合があります。		
	(7:00)		③現地実習後のフォロー		

月日(曜)	時間	実習項目	実習内容	担当課	担当者
	13:00 ~	経済調査業務	①経済調査事務の概要等の説明 (県内経済概況、景気予測調査など)	高知財務課	
	~		②ヒアリング事前レク等(所長を交えて検討) ・ヒアリング先の情報 ・質問項目の検討等	所長 高知財務課	
	~		③企業等ヒアリングの実施 (所長のヒアリングに同行) (事前に用意した質問項目等のヒアリング)		
	~ 16:00		④ヒアリング結果取りまとめ (実習生がヒアリング結果をとりまとめ)	高知財務課	
	16:00 ~ 17:00	実習報告作成等	実習の感想など意見交換、実習報告の作成	高知総務課	
9月22日	9:00 ~ 9:25	連絡事項等	実習報告の提出・確認、諸連絡、当日の準備	高知総務課	
(金)	9:30 ~ 11:00	模擬決裁・所長説明	※前3日間の実習結果の報告(模擬決裁など) ・融資業務(貸付決裁など) ・管財業務(売り払い決裁など) ・経済調査業務(県内経済概況など)	所長 高知各課長	
(7:00)	11:00 ~ 12:00	予備			
	13:00 ~ 16:00	実習内容は今後の調整で決定 ・予算執行調査 ・業務関係先訪問 ・広報業務など	本局及び当事務所の業務スケジュールを踏まえ、実習内容を決定します。	高知総務課	
9月25日	9:00 ~ 9:25	連絡事項等	実習報告の提出・確認、諸連絡、当日の準備	高知総務課	
(月)	9:30 ~ 11:20	地方創生支援のための若手PTの活動等	①活動状況の説明 ②グループディスカッション	局若手PT (PTリーダーほか)	
(7:00)	11:30 ~ 12:30	若手職員との意見交換等	事務所及び派遣されている局の若手職員と昼食を取りながらフリートーキング	局及び事務所 若手職員	
	13:00 ~ 15:00	金融業務	・監督業務 ・検査業務	所長 高知理財課	
	15:00 ~ 16:00	実習報告作成等	実習報告、アンケートの作成	高知総務課	
	16:00 ~ 17:00	所長との懇談等	実習の感想など意見交換	高知総務課	

(32:00)

⑥ UBCインターンシップ

教育プログラム「地方創生推進士育成科目」(準正課)の一つ「UBCインターンシップ」では、県内各地に常駐するUBC(高知大学地域コーディネーター: University Block Coordinator)の指導のもと、3名の学生がプログラムを受講しました。

「UBCインターンシップ」は、地域の課題解決に向けて大学・地域・自治体等の関係機関を「コーディネート」するUBCの活動を体験するインターンシッププログラムです。地域の実情に触れ、課題を認識し解決のための方策を考えることを目指しており、受講する学生は、現在UBCが向き合っている地域課題に基づいて設定されたテーマにUBCとともに取り組み、UBCの視点から実体験を通じて学びます。

受講した学生は、UBCの活動を通じて地域を体験するとともに、大学と地域をつなぐコーディネーターの役割の大きさを実感しています。

クラウドファンディングの現場を経験した学生は、学びのまとめとして、

- 地方において、クラウドファンディングは有効的な資金調達的手段になりうる。
- しかし決済手続きがWEB上になるため、インターネットに疎い人が扱づらいということが難点である。
- 特に地方は高齢者の割合が多いため、この難点をクリアできればさらに資金を集めることができると考える。
- SNS上におけるプロジェクトのPRにはインフルエンサーが重要な役割を担うことが分かった。
- 既存のファンがいるインフルエンサーをうまく活用することで寄付額が大幅に伸びる可能性がある。

と述べていました。

また、別の学生はUBCの活動に同行することで、「地域コーディネーターは、地域の困りごとなどに専門的な知識やノウハウを用いて解決する役割を担っているように思いました。また、地域の方に顔も覚えてもらい、信頼してもらうことが大切だと思いました。顔を覚えてもらえると、初めて会う人よりも信頼をしてもらえるので、現場に足を運んで実際に話し合うことが大切だとわかりました」

と気づきがあったことを教えてくれました。

今後も、地域に定着して貢献することの意義を自分事として捉えることのできる人材の育成を目指して、テーマを追加・更新しながらプログラムを充実させていきます。



7 コラボ考房プロジェクト

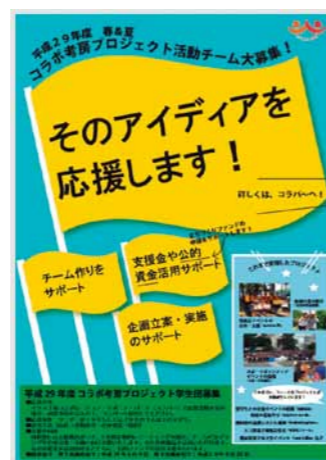
○ コラボ考房プロジェクトの目的

コラボ考房プロジェクトは、自律した人材の育成をめざし構築された教育プログラムで、毎年学生団体を募集し、採択された団体に対しては1年間にわたってプロジェクトの企画立案、実施、組織作りの支援を行います。

支援の内容としては、月1回程度のミーティングの開催と進捗状況の確認、年間数回行う学生団体の活動報告会「活動ブラッシュアップ会」の開催、校費による活動支援、物品の貸し出し等を行っています。なお、本プログラムは、地方創生推進士育成科目(準正課/第5phase 該当科目)に位置付けられています。

○ 学生団体の主な活動内容

29年度活動した団体は、5団体、24名の学生です。大学周辺地域のホテル観賞エリアを紹介する『ホテルマップ』を作成したり、高齢者の方を対象とし「1日だけハタチになって楽しもう!」をコンセプトとしたイベント『ハタチ会』を学内で開催し、近隣の高齢者の方に参加いただくなど、活動内容は多岐に及んでいます。



▷コラボ考房プロジェクト活動団体募集のポスター

プロジェクト名	チーム名	人数
ほたるを通して地域とつながる	ほたる飛ばし隊!!	8
次世代につなげよう地域の食	安田(あんた)の食応援隊	3
地域と大学を繋ぐ	リボン	5
室戸市佐喜浜の観光場所の整備及び情報提供	さきはま大好きクラブ(ささらぶ)	3
そうだ、狩りに出よう。～狩猟を通して、中山間と野生動物の共生を考える～	土佐の懸橋 ハンプロ	5

○ 実施スケジュール

- 5月 ・学生団体の募集開始(今年度は通年募集)
- 6月 ・活動ブラッシュアップ会の開催
・広報テント活動の実施
- 10月 ・活動ブラッシュアップ会の開催
- 1月 ・活動ブラッシュアップ会の開催



活動ブラッシュアップ会の様子



▷活動ブラッシュアップ会のポスター

○ 概況

今年度は2団体の新規プロジェクトが立ち上がり、計3団体の支援を行いました。28年度より活動していた団体は、テーマ設定に苦労しましたが、支援教員のアドバイスのもと、地域の関係者と連携し、対象者とコミュニケーションを重ねながら、イベントを開催することに成功しました。また、新たに立ち上がったチームもすでに地域の関係者と連携し意見交換しながら活動を開始しています。



学生団体リボンが開催したイベント「ハタチ会」の様子

8 地域講座

教育プログラム「地方創生推進士育成科目」(準正課)の一つ「地域講座」では、高知県が持つ魅力そして課題についての理解を深めるとともに、学生が地域で活動するための土台となる知識を習得することを目的に、大学や行政、公的団体が開催する講演会や講座などを30時間受講することによって、2nd phase 2単位として認定することとしました。

○ 実施した講座

- ① 高知観光の最前線! (講師: 高知県観光政策課)
観光博覧会「志国高知 幕末維新博」や「龍馬パスポート」など高知観光について学んだ。
- ② 南国の恵み! 高知の特産果樹の旬 (講師: 高知県観光政策課)
ゆず、文旦、ポンカン、小夏等の果物の特徴と旬を学んだ。
- ③ 集落活動センター推進フォーラム (主催: 高知県中山間地域対策課)
石破茂初代地方創生担当大臣による「地方創生とは」「小さな拠点による地方創生の可能性」についての講演と集落活動センターによる活性化に取り組む矢野富夫梶原町長による事例発表を傍聴した。
- ④ 高知県の人口ビジョン・総合戦略 (講師: 高知県計画推進課)
高知県の進めている「高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」の概要やその背景となる人口問題などについて学んだ。
- ⑤ 地域経済分析システム(RESAS)について (講師: 高知県計画推進課)
国が提供している地域経済分析システム(RESAS)のビッグデータ(産業・人口・医療など)の活用について学んだ。
- ⑥ 地方創生フォーラム in 高知「平成集落維新! 未来は土佐の中山間より」 (主催: 一般財団法人 地域活性化センター)
- ⑦ 中山間地域の現状～高知県集落調査から～ (講師: 高知県中山間地域対策課)
28年度に実施した集落調査をもとに中山間地域の「いま」を学んだ。
- ⑧ 集落活動センターを核とした集落維持の仕組み作り (講師: 高知県中山間地域対策課)
地理的、経済的に不利な中山間地域で、誰もが一定の収入を得ながら、安心して暮らし続けることができる仕組み作りを目指した取り組みを学んだ。
- ⑨ 高知ふるさと応援隊の活動 (講師: 高知県中山間地域対策課)
地域おこし協力隊や集落支援員など地域活動の推進役となる「高知ふるさと応援隊」の活動事例を紹介しながら、中山間地域での応援隊の役割を学んだ。
- ⑩ 南海トラフ地震がよくわかる (講師: 高知県南海トラフ地震対策課)
- ⑪ もっと学ぼう南海トラフ地震～今すぐはじめる南海トラフ地震の備え～ (講師: 高知県南海トラフ地震対策課)
南海トラフ地震について、正しい理解を深めしっかり備えるため、高知県が巨大地震の発生に備えて進める、先進的な取り組みについて説明するとともに、起震車で、実際の揺れを体験した。
- ⑫ 高知ではたらくを考える (講師: 高知県商工政策課・県内企業)
「高知県ではたらくこと」のイメージを明確に持つ一助とするため、企業人の立場、行政の立場から経済指標や実体験などを織り交ぜながら事例を学んだ。

9 地域交流

地域へ外向き、地域で暮らす人や働く人と実際に交流するなかで、地域のリアルな情報を知り、考え方を学ぶことをめざした地域交流を「地方創生推進士育成科目（準正課、4th phase）」として実施しました。

○ 実施した交流事業

- ① 地方創生フォーラム in 高知エクスカージョン（人が宝・天空の町嶺北）
土佐町石原でJAが撤退したガソリンスタンドや日用品・食品を扱う「さとのみせ」、「集落活動センターいしはらの里」を訪問し、意見交換を行った後、本山町汗見川の「集落活動センター汗見川」を訪問しました。
- ② 業界研究フィールドワーク（食品流通編）
愛媛、徳島、高知のCGC加盟店（中堅・中小スーパーマーケットの協業組織）が集まる四国CGC商品展示会を訪問しました。
- ③ 移住体験ツアー
地方移住に関心のある方に高知県を紹介する高知県主催の「移住体験ツアー」に同行し、高幡地域（須崎市、中土佐町）を訪問し、地域の方と交流しました。
- ④ 高知県東部の農業を知る！
高知県東部で先進的な取り組みを行う4地域を訪問しました。安田町では新規就農者向けの研修実践ハウス、田野町では、高知大農学部を卒業し、ナス栽培を行っている先輩2人を訪問しました。また、奈半利町では地域の農林水産物資源を活かした生産・加工・流通販売を一体化とする「6次産業化」等の取り組みを進めている「集落活動センターなはり郷」を訪問し、後継者不足の解消に向けて、北川村が進めている園地の整備を視察し、支援制度などについて勉強しました。
- ⑤ ものづくり総合技術展
高知県内で「ものづくり」に携わる事業者が一同に会し、優れた技術・製品の紹介などを行う場を訪問しました。
- ⑥ シフトプラス訪問
高知に進出したIT企業で、ゲームの運用における品質保証とカスタマーサポートをワンストップで提供する株式会社シフトプラスを訪問しました。
- ⑦ 高知県紙産業技術センター訪問
高知県の紙産業について学ぶため、高知県紙産業技術センターを訪問し、県内の製紙会社5社に対し、各企業の製品の特徴・技術や将来戦略（技術戦略、成長戦略、顧客獲得戦略、IT戦略等）についてヒアリングを行いました。



4 雇用創出

① 学生の県内定着または雇用創出に係る研究の推進

「まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム」（以下「本事業」という。）を推進する上で、地域（高知県）の企業等の活性化を促すなどによる雇用の拡大及び県内での起業に結びつく研究または地域への就職率向上に寄与する研究は非常に重要であり、学内で過去の研究活動などを基に、5件の研究活動を推進しました。

この中には、これまで研究活動を支援したことにより、その成果として「日本遺産」登録へと繋がった研究課題もあり、今後の雇用創出が期待できます。また、本年度はいままでの共同研究を後押しする形で研究を推進しており、上述の研究課題と同様にその成果が雇用創出に繋がるものと期待しています。

平成29年度の研究課題等は以下のとおりです。

所属(学系)	研究代表者	研究課題名
人文社会学系	吉尾 寛	「生活史を基調に安田町集落活動センターなかやまを魚梁瀬森林鉄道保存・活用の拠点として整備し、中芸5ヶ町村の観光雇用を創出・拡大するための研究」
医療学系	大井 美紀	「地域課題に即した看護ケアをinnovationでできる看護師の育成・輩出を目指した看護師育成プログラムの開発」
総合科学系	深見 公雄	「海洋深層水の特性を多段階的に利用した水産資源生産による地域産業イノベーション」
総合科学系	永田 信治	「高知県の人材(ひと)・自然(まち)・資源(しごと)を活用して高知家の絆を深める雇用と事業の創出」(その2)
土佐FBC	吉金 優	「高知県産ワインTOSAの品質評価およびブランド化」

② 食品産業育成事業

高知大学が地域の食品産業における中核人材育成事業として実施している「土佐フードビジネスクリエーター人材創出(土佐FBC)」において、雇用創出のための更なる拡充策として、国家認証制度である「食の6次産業化プロデューサー(通称:食Pro)」及び企業の海外販路開拓支援として「土佐FBCグローバルプログラム」に取り組んでいます。

食Proにおいては、食Proコースを開設するとともに、他のコースにおいても取得が可能となるプログラムを構築し実施しました。

平成28年度は、32名が受講を希望し、28名が有資格者としてコースを修了うち16名が取得しました。

平成29年度は、38名が受講を希望し、そのうち33名が有資格者として修了を予定しています。

「土佐FBCグローバルプログラム」は、土佐FBC修了生所属企業及び学生を対象にした、食品における海外ビジネスを外国で実際に体験する研修プログラムです。海外ビジネスに豊富な経験をもつ専門家の指導により商談や展示会参加の留意点等必要な知識を修得する事前研修(3回)と、海外で開催される展示会に出展する海外研修に今年度は、「だし醤油・だし酢」などを製造・販売するしまんと百笑かんばん(株) 営業 浜田城氏と高知大学の学生3名が参加しました。

研修成果として、しまんと百笑かんばん(株)は現地日本食レストランにおいて、「だし醤油・だし酢」を用いたメニュー開発が行われるなど、商品を引き続き取り扱っていただけることとなりました。また、現地商社と商談した結果、商品の仮輸入元となっただけにとともに、現地百貨店でのフェアにて対面販売の機会をいただくなど、香港への販路開拓への体制が整えられました。

また、昨年度参加企業である(有)菱田ベーカリーは、現地の人気スイーツ店において試食販売の機会をいただき、その後も店頭で商品の販売をしていただきました。また現地の日本食を扱う小売店とも、引き続き商談を進めています。

本プログラムが海外に対応できるグローバルな人材の育成の一助となり、また、JETRO高知の専門家や土佐FBC教員とともに展示会に出展したことで、海外販路開拓についてのノウハウが得られ、今後の海外事業展開の端緒となることを期待します。



● 第1回事前研修会

【日時】平成29年6月14日(水) 13:30~17:15

【場所】高知大学地域連携推進センター セミナー室

【主な内容】

「土佐FBCグローバルプログラム」説明	ジェトロ高知 所長 山口和紀氏
講義「香港向け食品輸出の実務基礎」	ジェトロ高知 所長 山口和紀氏
講義「いかに香港に食品を売り込むか」	(株) こうち暮らしの楽校 代表取締役 松田高政氏
会社・商品説明	しまんと百笑かんばん(株) 営業 浜田城氏

● 第2回事前研修会

【日時】平成29年7月5日(水) 13:30~17:00

【場所】高知大学地域連携推進センター セミナー室

【主な内容】

講義「香港で日本食品流通を担う企業(商社、卸、小売、飲食店)」	(株) シラカシフーズコンサルティング 代表取締役 白樫一彦氏
講義「香港市場に向けた商品開発とブラッシュアップ」	(株) こうち暮らしの楽校 代表取締役 松田高政氏

● 事前発表会及び第3回事前研修会

【日時】平成29年7月26日(水) 13:30~17:30

【場所】高知大学地域連携推進センター セミナー室

【主な内容】

事前研修成果と課題発表	
講義「展示会の出展効果を高めるための方法」	(株) こうち暮らしの楽校 代表取締役 松田高政氏

第1回事前研修会から第3回事前研修会では、参加企業の会社商品である「だし醤油・だし酢」について海外研修の課題設定及びディスカッションを行い商品の売り方や改良・開発について活発な意見交換後、展示装飾実習やロールプレイ実習を行い海外出展に挑みました。



● 海外研修

【日時】平成29年8月13日(日)～20日(日)

【場所】香港

【主な内容】

香港コンベンション&エキシビジョンセンターにて8月17日～19日、香港最大級の国際総合食品見本市「香港Food Expo 2017」が開催されました。

展示会では、高知の自然の豊かさとカツオについてイメージしやすいように工夫を凝らしたブース作りを行い、展示用商品である(だし醤油・だし酢・だしパック・業務用だし醤油)を展示し、試食提供の用意を行い本番がスタート。学生らは、自身の英語力と事前研修でのシミュレーションを活かし、来場者への試食提供と商品説明およびアンケート調査を積極的に行いました。

しまんと百笑かんぱに(株) 浜田様も、多くのバイヤーから名刺交換や商談を求められ、同行スタッフのサポートのもとで商談を進め展示会の他、JETRO 香港への訪問や小売店視察を通して現地事業者訪問を行う中で、商談へと繋がる話をいただく進展などがありました。



● 研修報告会

【日時】平成29年10月18日(水) 13:30～16:00

【場所】高知大学地域連携推進センター セミナー室

【主な内容】

高知大学地域連携推進センターにて18日、土佐FBCグローバルプログラムの報告会を行いました。

受田地域連携推進センター長からの主催者挨拶の後、土佐FBC栗田せりか特任助教から8月香港にて開催された「香港Food Expo 2017」の海外研修の報告がされました。

その後、しまんと百笑かんぱに(株) 浜田様から、事前研修会にて学んだ香港研修前の仮説(商品の強み・弱み等)についての説明や、香港での市場調査、現地企業視察及びバイヤーとの商談を経験した事により、今後の海外販路拡大へと前進したことの報告が行われた後、高知大学の学生3名からは、「香港Food Expo 2017」出展時に実施したアンケート結果からの「発見」や「傾向」について、また、自分達が事前研修で立てた仮説については、仮説設定時の基準が日本人・学生といった偏った見方であったことなどの報告がされました。参加者全員から目標と抱負の振り返り・今後の目標について発表された後、講師の(株) こうち暮らしの楽校 松田高政代表取締役、ジェトロ高知の山口和紀所長から、今回の事前研修会で取入れた「仮説」の重要性や研修を通しての講評が行われ、最後に、高知大学地域連携推進センター川澤地方創生推進部門長から、閉会挨拶があり報告会を終了しました。



③ 若手社員の自律化支援事業

SBI (Society Based Internship 人間関係形成インターンシップ)

● 事業紹介

SBIは、3人一組で3週間企業に入り、職場体験をするインターンシップです。単なる業務理解だけでなく、協働体験から、自己理解を深めることを目指しています。また、企業に実習へ入る前には、目標設定やチームビルディングやマナー研修会といった支援も行います。

また、SBIは学生への支援だけでなく、企業にとっては人材育成のきっかけとして活用されることを目指しています。実習先の企業では一人のSV(スーパーバイザー)が学生を担当し、実習プログラムの立案や学生の実習支援を行う中で、企業人としてのスキルを磨きます。

さらに、SBIでは、このプログラムのさらなる向上を目指し本学教員と、SBI関係企業の経営者からなる「SBIシステム研究会」を年に数回開催し、活発な意見交換を行っています。

今年度は研究会の中で、SBIの学内認知と学生関与のきっかけづくりを目指し、「企業と語ろう!にぎやか鍋パーティー in 高知大学」という企画が立ち上がり、11月に実施され、多くの学生が参加しました。

なおSBIは「地方創生推進士育成科目(準正課)第5phaseに、位置付けられています。

● 平成29年度の実施状況

【第14期SBI高知/参加学生:6名、受け入れ企業:2社】

- 6月
 - ・マインドアップセミナー
 - 7月
 - ・チームビルディング&目標設定セミナー①
 - ・第1回高知SBIシステム研究会
 - ・学生と受入企業との顔合わせ
 - ・目標設定塾※受け入れ企業担当者対象
 - ・チームビルディング&目標設定セミナー②
 - 8月
 - ・マナー研修会
 - ・SBインターンシップ実習(第14期高知)
 - 9月
 - ・中間モニタリング
 - ・事後モニタリング、目標設定総括セミナー
 - ・振り返り報告会
 - ・目標設定総括塾
 - 10月
 - ・第2回高知SBIシステム研究会
 - ・第1回SBIシステム検討幹事会
- ※本学教員及び外部コーディネーターと実施

- 12月
 - ・第2回SBIシステム検討幹事会
 - ・マインドアップセミナー
 - ・チームビルディング&目標設定セミナー①
- 3月
 - ・振り返り報告会

(セミナーや報告会の写真を数点掲載予定)

「企業と語ろう!にぎやか鍋パーティー in 高知大学」
【日時】11月21日(火)、22日(水) 12:00~12:50
【会場】高知大学朝倉キャンパスの赤レンガ広場
【参加企業数】8社(11名)
【参加学生数】47名



セミナーの様子



報告会でプレゼンテーションを行う様子



経営者の方と談話する様子



イベントの様子



企業の受け入れ担当の方との振り返り



「企業と語ろう!にぎやか鍋パーティー in 高知大学」ポスター



企業の方と談笑する様子

● 本年度の概況

高知SBIシステム研究会において、企業人、教員、学生から出たアイデアが発端となり、「企業と語ろう!にぎやか鍋パーティー in 高知大学」という新たな企画が実施された。このイベントでは、学生と企業人が就職活動やインターンシップといったオフィシャルな場では話題とできないようなプライベートな話題で盛り上がる様子が見られ、互いに理解を深める場として有効だった。企業人の方からは、「学生のみなさんの率直な意見が聞けてとてもよかった」といった意見があった。

4 観光人材育成事業

雇用創出プログラムのひとつである、観光人材育成事業では平成28年度に発足した「観光人材育成事業検討会」で必要とされる人材像と教育カリキュラムの検討を行い、平成29年度は「こうち観光カレッジ」として試行実施しました。こうち観光カレッジは、地域づくり、組織づくりの観点に特化した中核的な観光人材を育成するプログラムです。県内はもとより日本国内の観光に関するエキスパートを講師として迎え、観光マネジメントをはじめフィールドスタディまで幅広く学べるようにしました。

「マーケティング力・マネジメント力・実践力」「ファシリテーション力・チーム形成力」「情報収集分析力・企画力」「発信力・プレゼンテーション能力」を高めることを狙いました。

平成29年11月14日の開講記念基調講演「高知が選ばれ続けるために必要なこと」では、観光カリスマの山田桂一郎氏の講演に対し、一般を含め約100名の参加者が、魅力的な観光地をつくるためには、そこに住む人々が地域を良くするために自分たちで動くことが必要だといったことを学びました。

こうち観光カレッジの受講生17名は、

「観光を体系的に学んでみたかった」	「観光分野での起業を考えている」
「食を中心にした体験型観光をやってみたい」	「交流人口の拡大を提案したい」
「観光を学ぶ仲間を見つけたい」	「高知の魅力をブラッシュアップしたい」
「環境と観光の橋渡しをしたい」	「異分野から視野を観光に広げたい」

といったような動機のもと、11月から1月にかけての週末に行われた講義を熱心に受けました。講師の方々からは、受講生が自ら活発に質問をして、グループワークを率先して進めていることに高い評価をいただきました。

その結果、16名が修了認定（座学）を受け、1名の受講生が「観光プロジェクト企画実習」（インターン）のなかで高知県庁と商店街で学びを深めています。

また、受講中から自発的な受講生自身によるネットワーク化が進み、修了生によるネットワークが誕生しました。今後のそれぞれの修了生の活躍とネットワークの発展が期待されます。



11月14日ディスカッション



1月20日ケースメソッド

○履修カリキュラム一覧（座学 全34時間）

日程	時間	講義	講師
11月14日(火)	13:30~14:30	基調講演「高知が選ばれ続けるために必要なこと」	JTIC.SWISS代表 山田 桂一郎
	14:30~15:00	開講式	
	15:00~17:00	ディスカッション	JTIC.SWISS代表 山田 桂一郎 高知大学地域連携推進センター長 受田 浩之
11月19日(日)	13:00~16:00	ファシリテーション・リーダーシップ	高知大学地域協働学部 講師 須藤 順
11月19日(日)	16:00~19:00	地域学	日本銀行高知支店長 大谷 聡
11月25日(土)	9:00~12:00	観光地域づくり体制構築・DMO/DMC I	(株)ものべみらい代表取締役社長 古川 陽一郎
12月2日(土)	10:00~14:00	インバウンド	日本航空(株)高知支店長 磯村 康志
12月2日(土)	14:00~17:00	観光地域づくり体制構築・DMO/DMC II	(株)日本政策投資銀行 地域企画部 内藤 貴子、中村 郁博
12月9日(土)	13:00~16:00	観光地域デザイン	(公財)日本交通公社 主任研究員 後藤 健太郎
1月20日(土)	10:00~14:00	観光地域ブランディング	北陸先端科学技術大学院大学 教授 敷田 麻実
1月20日(土)	14:00~18:00	ケースメソッド	北海道庁地域創生局 地域づくり担当局長 今井 太志
1月21日(日)	9:00~16:00		

5 起業支援事業

平成28年度末に設置した起業部は、10名の部員により活動を開始した。基本的に各部員が自ら地域へ出向き、様々な人と会う中で自らのアイデアのブラッシュアップを図ることを企図している。部員の活動を部員同士で共有および教員やメンターが把握するための場として、週ミーティングおよび月例ミーティングを開催している。週ミーティングは部員主導とし、月例ミーティングは教員が進行することに加え、外部から様々なゲストスピーカーも招聘して部員の活動に対する指導、助言を頂戴している。各部員はアイデアの具現化のためにマイプロジェクトの実践を入部直後から開始し、週ミーティングおよび月例ミーティングで報告することを課している(写真1)。また、月例ミーティングのゲストとして、高知県庁計画推進課から地域経済分析システム (RESAS) 担当者によるRESAS活用セミナーの開催(写真2)や本学卒業生であり県内での起業経験者との面談など、部員のアイデア具現化のための様々なサポート企画を実践した。

夏休み期間中に部員が集中的に学ぶため、1泊2日の合宿も企画した。合宿先は四万十川中流域にあるシェアオフィス161を会場とした。特定非営利活動法人土佐山アカデミーの吉富慎作事務局長、難波ファシリテーション事務所の難波氏を講師として、リーンキャンパス等によるアイデア創出ワークショップおよびピッチ練習を行った(写真3)。

これら活動の成果として、部員の1名がキャンパスベンチャーグランプリ四国大会で優秀賞を受賞したことに加え、別の1名は今年度内に法人化を予定している。



①



②



③

5 全国ネットワーク化事業 平成29年度COC/COC+全国シンポジウムの開催

高知大学は3月2日～3日、「全国ネットワーク化事業 平成29年度COC/COC+全国シンポジウム「地方が描く日本の未来」」を高知市で開催し、全国の大学や県内自治体関係者約370人が参加しました。

本シンポジウムは、文部科学省が進める「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC/COC+)」の一環として、平成25年度から全国のCOC及びCOC+実施機関の取りまとめ校として開催しており、地方創生に関するムーブメントが本格化している中、全国の大学等が自治体や企業等と協働して、学生の地元定着や雇用創出に向けた連携事業が行われ、各地域の特性に即した課題解決に向けての議論や情報共有が行われました。

1日目には、脇口宏学長による開会挨拶後、尾崎正直高知県知事の開催地挨拶(代読・澤田博睦産業振興推進部副部長)、文部科学省の平野博紀大学振興課大学改革推進室長の挨拶に続き、立命館アジア太平洋大学の出口治明学長からは、「日本の未来を考えよう」と題した基調講演が行われ、まず初めに物事を正確にみるためにはタテ・ヨコ・算数でデータを見るのが一番大事である「タテ・ヨコ思考の重要性」について説明がされた後、異常な少子高齢化問題について、先に少子高齢化が進んだヨーロッパでの取り組み事例を参考に説明が行われ、これからの日本もパラダイムシフトの確立が必要であることが強調されました。

また、日本の国際競争力の推移データの説明では、問題はなぜ日本の順位が下がったのかを考え、今後は製造業が栄えた高度経済成長期時代の働き方である長時間労働を止め、人・本・旅に切替える時代であり、色んな人に会い・色んな本を読み・色んな所に出掛けることで考える力を鍛え、その結果イノベーションが起きるとの熱いメッセージが送られました。

続いて、「地域連携の長期的継続に向けて」をテーマにパネルディスカッションが行われ、清水健司岩手県政策地域部地域振興室専門員、梅村仁大阪経済大学経済学部教授、松田智生(株)三菱総合研究所主席研究員からのプレゼンテーション「岩手の「にぎわいづくり」について」、「一地域事例から学ぶ:Co.Production-」、「民・公・産・学の四方一両得大学連携型コミュニティ」後、大学の地域連携活動を長期的に継続していくために意見交換が行われ、未来の地域及び大学のあり方を深く掘り下げることができました。その後COC/COC+実施機関のうち12機関によるポスターセッションが行われました。

2日目の分科会では、三つのテーマに分かれて分科会を開催し、各大学の取組事例について活発な意見交換が行われ、最後に、櫻井克年理事(総務・国際・地域担当)による閉会挨拶で本シンポジウムは盛会のうちに幕を下ろしました。



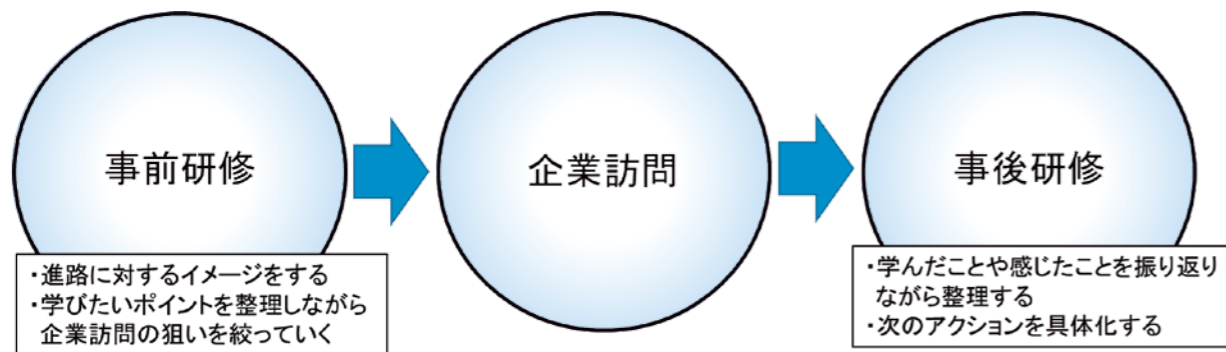
1 高知県立大学

【県内企業人との交流会】

本事業は、高知県内で活躍する企業を訪問し、企業の特性や魅力を学びながら、仕事の意義や県内企業に対する理解を深めることを目的としている。

事業の特徴は、企業訪問の事前・事後に座学を組み込み、PDCAサイクルに基づいた体系的なプログラムを学生に提供し、より教育効果を高めるとともに、事業終了後においても、自主的に就職活動等に取り組むことを意識した事業構成であることが挙げられる。

事前研修では、学生に進路に対するイメージを膨らませることを促し、それらに対して訪問の目標・目的を個別に設定する作業を行い、企業訪問後の事後研修では、学び・経験をさらにブラッシュアップし、今後のステップを具体化していくことを狙いとしている。



本事業の成果は、実地体験による学生の視野の広がりや意識の変化である。例えば、就職後のキャリアパスを課題として捉えていた学生が、経営者や若手職員との交流によって、新たな視点や考え方を学んだことで課題解決のヒントを得た、との感想があった。その後、当該学生はこれを契機に自己の体験・気づきから、主体的な就職活動への転換につながっており、県内就職に向けた意識の向上においても大きな効果を与えたと考えられる。

実施回数	訪問企業数	参加学生数
第1回	4社	8名
第2回	4社	8名(うち連携大学の学生3名)
第3回	3社	9名
第4回	4社	11名(うち連携大学の学生6名)



【業界研究バスツアー～製造企業編～(第3回)】



2 高知工科大学

【海外インターンシップ】

平成29年度の海外インターンシップでは13名の学生が、タイ3社、ベトナム2社、インド1社、中国1社の受入先で実習を行った。うち本県に本社を置く以下の企業3社に各2名の計6名を派遣した。

●池川木材工業株式会社

本社のある仁淀川町およびホーチミン近郊のビンドンで各2週間の実習を行った。国内では県産材(ヒノキ)を使った主力製品の製造、ベトナム工場では本社から提供される端材による製品の製造に携わることで、徹底したコスト意識と生産性向上を大前提とした海外事業展開に触れることができる。また、林産から製材、加工までを一貫して行う同社での実習では、豊富な森林資源活用や雇用創出といった本県の課題に対する可能性をも実感できる貴重な機会となっている。

●株式会社土佐電子

4週間の現地での実習は、同社ベトナム工場での製造補助と並行して、同社が現地に置く、日本での就労を目指すベトナム人のための日本語学校講師の補助業務が今年度追加された。社会貢献としても取り組まれるこの事業に携わることで、現地スタッフの定着率という経済発展を続ける外国への進出企業が抱える共通課題に対する好事例を本県企業から学ぶ機会となっている。

●株式会社太陽

高知市の本社で1週間、インドで3週間、派遣学生の専門分野(文・理別)に沿った実習を展開。さらに今年度は、同社が出展する農機関連の展示会にも同行し、日本国内ではトップシェアを誇る同社がインド市場での販路拡大という現場を体験することができた。

以上、緊密なコミュニケーションが可能である県内企業においては、派遣学生の専門性や希望はもちろん、個々の成長を考慮した実習内容に年々拡充されている。また、派遣学生による成果報告会には100名近い学生が参加しており、グローバルに展開する県内企業の存在を知らしめる機会となっている。

【マネジメントチャレンジ】

平成29年度の地域共生概論2(マネジメントチャレンジ:以下「マネチャレ」と略す)では、大川村、須崎市、室戸ジオパークの3箇所をフィールドとして活動を行った。参加者は、学生が10名、社会人が1名であった。各チームとも、現場に足繁く通い、地域の方々の思いを丁寧に聴き、その実現に向けた企画を立案・実行すべく真摯な努力を重ねた。大川村チームは2回の住民読書会の開催、須崎チームは古民家「上原邸」を広報するための工科大学・須崎高校の合同演奏会の開催、室戸チームは外国人向けのモデルツアーの立案・実施・評価を行った。いずれのチームの活動も、「顧客」である地域の住民から高い評価を頂いた。今年度のマネチャレは6年間で最も充実した講義となった。

講義では、まず、「すべての問題は人と人との関係性で解決できる。技術は後からついてくる。」という近藤哲生著「実用企業小説 プロジェクトマネジメント」(日本経済新聞社)という近藤流プロジェクト理念を強調した。本理念は、欧米流のPMBOKには記述されていないが、プロジェクトマネジメントの根幹を成すと考えられるからである。学生は、この理念を十分に理解するだけでなく、現実の問題に適用するための努力を試みてくれた。成果は、以下の2点に大別される。

3 高知工業高等専門学校

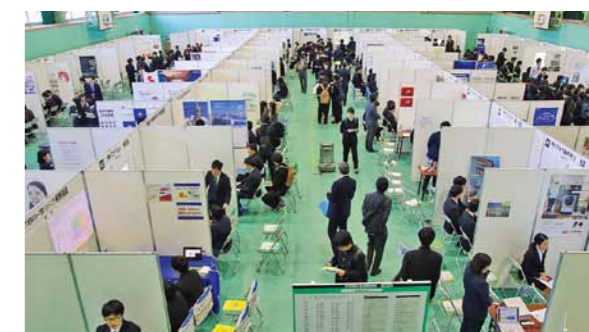
① 県内企業見学会、交流会、企業説明会

平成29年度の活動として、本校のキャリア支援室及び地域連携センターが中心となり、(一社)高知県工業会と連携し、以下の3つの活動を実施しました。

昨年に引き続き今年度も12月に、本校の1年生および2年生の全学生(約340名)が8グループに分かれ県内企業を2社ずつ(計16団体)訪問しました。見学会に先立ち1・2年生の特別活動の時間帯を利用して、県内企業延べ14社に参加いただき「高知県の工業について学ぼう」と題した業種研究会を実施しました。これらにより、学生が低学年次から地域と出会う機会が拡がり、県内企業従事者や本校の先輩と交流を図ることで県内企業に対する知識や理解を深めることができました。

11月に「県内企業 mini 交流会」、2月に「県内企業研究会」を実施しました。mini 交流会には県内企業8社、企業研究会には県内企業20社に参加いただきました。mini 交流会への参加者は4年生を中心に約40名の学生、企業研究会には約30名の学生が参加しました。

3月に企業合同説明会を開催しました。県内企業は26社に参加いただきました。たいへん盛況で、就職活動が始まった専攻科1年生、本科4年生を中心に多数の学生に加えて、夏季休業中にインターンシップを希望している3年生の姿も多く見られました。



② 「高知高専うなづくプレゼンテーション(うなプレ)」の開催

「コウチ×コウガク」をテーマに「うなプレ」を11月に実施しました。国語、地理、社会科学などの授業を通じて課題の発見と解決、プレゼンの方法を学び、1・2年生の全学生(1年生:57チーム、2年生:38チーム)と3年生(1チーム)が参加しました。RESASを活用してテーマに即した課題を抽出し、高知県が抱える問題を工学によって解決するアイデアを発表しました。そのアイデアを練るなかで、地域に対する眼差しを深め、地域のために何を創造するかを各学生が考えることができました。

また、昨年度発表の「しょうがペーパー」が地元企業との協働によりアイデア実現に動いています。今年度発表の「ベジふるパウダー」は、高知県主催の高知家地方創生アイデアコンテスト2017で最優秀賞(高知家地方創生大賞)を獲得し、実現に向けて動き始めました。このように地域と学生とが深く関わる社会実装教育の側面も「うなプレ」は持ち合わせています。



第一は、プロジェクトメンバーと顧客との関係性構築である。具体的には、現場に足繁く通い、複数の住民の方々から話を伺うことによって、地域には多くのニーズが存在することを、肌で実感することが出来た点である。通常、マネチャレでは、①地域住民との「お見合い」、②関心を持った地域の文献・WEB調査、③一部の住民(「顧客」)へのインタビュー、を通して、企画のイメージを明確化し、立案していく。しかし今回、あるチームは、企画実施過程で顧客以外の住民に「突撃」インタビューを行い、その住民が顧客とは異なるニーズを持っていることに気付いたのであった。残念ながら、時間の制約上、この気付きは今回の企画に生かすことは出来なかった。しかし、この突撃インタビューによって、学生は、地域のニーズを生き活きと、かつ、複眼的に感じることが出来るようになった。このことは、学生自身の成長を促すと同時に、後輩が同地域での企画を立案・実施する際に貴重な情報をもたらすと考えられる。

第二は、プロジェクトメンバー間の関係性構築である。具体的には、プロジェクトメンバーを信頼することの重要性とその方法について、学生が深く考えるようになった点である。プロジェクトリーダーは、自分で仕事をこなさなければならないとの責任感から、一人で仕事を行う。他のメンバーは、リーダーがやった方が上手く行くとの思いから、徐々に「受け身」になっていく。リーダー以外の学生は、「消極的な自分を変えたい!」との思いを持って参加しても、自己変革への挑戦の機会を見逃した事例も見られた。振り返りの合宿では、「自分の思いを伝え合うべきだった。」「相手を信頼し切れていなかった。」との感想も聞かれた。プロジェクトリーダーは、自身の信頼性を高めると同時に、相手の状況を理解し、相手に話しかけていく勇気が求められる。メンバー間の関係性・信頼構築の重要性という近藤流プロジェクト理念を、自分の問題として捉えることが出来たことは、大きな成果であった。

【地域と学生とのマッチング活動について】

本年度も、香美市、香南市及び高知市の学校活動をサポートするために、地域の各学校と学生サポーターのマッチングを行った。平成29年度は延べ人数で学生53名を、総数で15校に送り、活動を行った。

各学校で学生が行ったサポート活動は、1) 課外の時間に学力を付けるための加力活動(高知県教委ではこのように命名しているが、小学校から高校まで教科と範囲はかなり多様である)、2) 授業の補助活動(実験や、授業準備等の補助および授業運営の補助など)、3) クラブや部活指導の補助活動、4) ネットワークや、ITによる教授活動の補助等々、多岐にわたる。

活動時間については、学校側が必要とする時間と学生の空き時間をマッチングするプログラムによって行い、今年度もスムーズに行えた。学校からの評価はかなり好評である。次年度以降もさらなる要求に応えられるようにマッチングプログラム環境を改善しつつ対応していきたい。

さて、高知県および各市の教育委員会が学校をサポートする学生を求める数は年々増加している。また、必要な活動に交通費や一定の人件費を充てて対応する事例も増加している。高知工科大学ではこれまでボランティア(無償)活動として位置づけてきたが、上記のような事情により、近年では有償による活動事例と、無償による活動事例が混在するようになってきた。

今後は、まずボランティアで一定の経験知を有した学生、あるいは対象学校が遠距離で一定の交通費や負担を伴う場合に、有償の活動をマッチングできるよう、プログラムのさらなる改良が求められている。次年度は、是非ともこの点を改善し、さらに学校現場や、地域の要望に応えられるように努めたい。

2年後には、小学校にプログラミング教育導入が求められていることから、学校現場よりこの課題についての問い合わせが多くなっている。この点も、次年度以降に対応したい。



1 外部評価

事業のPDCAサイクルを効果的に実施するために設置された、外部評価委員会が平成29年6月12日(月)に開催されました。外部評価委員会は県内外の有識者4名で構成され、今回は平成28年度事業実績についての評価が行われました。評価方法は平成28年度の活動や評価項目(評価フレーム)を自己点検評価書として作成し、この自己点検評価書に基づき行われるとともに既存の評価項目(評価フレーム)についての意見等もいただく形で進められ、以下の講評をいただきました。

● 眞鍋委員長からの全体講評

- ・全体的に色々難しい状況の中、事業としては、着実に推進されている。
- ・地方創生推進士については、育成のみならず事業へ参画していただくなど活躍の場を設計しては。また、企業側の理解や協力を得る工夫が必要であることや学生を事業全体に巻き込むことが相互に良い作用を生むのではなどのアドバイスがありました。



● まち・ひと・しごと創生 高知イノベーションシステム外部評価委員会名簿

平成29年4月1日現在

機関名	役職	氏名
北九州市立大学	地域創生学群長	眞鍋 和博
株式会社クオリティ・オブ・ライフ	代表取締役	原 正紀
高知労働局	職業安定部長	渡辺 剛史
高知商工会議所	専務理事	杉本 雅敏

2 中間評価

独立行政法人日本学術振興会の下に運営される「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業委員会」において、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の達成状況や成果等について評価を行うためのヒアリングが平成29年10月24日に行われました。

その結果、A(計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。)と評価されました。

● コメントとしては、

<優れている点>

- ・当該事業の補助期間終了からの活動も配慮・検討が行われており、成果が期待されることは評価できる。
- ・地方創生推進士を育成するという目的が明確であり、関連企業も協力がしやすいと思われることは評価できる。
- ・全国COC+コーディネーター会議の開催や、高知大学地域コーディネーター(UBC: University Block Coordinator)の活用において先導的な取組を実施していることは高く評価できる。
- ・高知県事業との連動、県からのCOC+事業への協力の両面において優れており、高く評価できる。

<改善を要する点>

- ・最終目標の達成を見据えて、着実に実績・成果を創出するための一層の努力が必要である。

中間評価結果の総括

S評価：計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる…5件(11.9%)

A評価：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる…22件(52.4%)

B評価：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である…15件(35.7%)

文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」(COC+)

**平成29年度まち・ひと・しごと創生
高知イノベーションシステム報告書**

発行日：2018年3月

発行：国立大学法人高知大学 地域連携推進センター
〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2丁目17-47
TEL 088-844-8293 FAX 088-844-8556

印刷：株式会社 高知新聞総合印刷

